

【取扱い厳重注意】

平成24年4月5日

聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 齊藤 修啓

平成24年4月5日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりであるので報告する。

記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

東京電力福島第一原子力発電所 ■■■■■ 三・四号機補機操作員

2 聴取日時

平成24年4月5日午後1時00分頃から同日午後2時00分頃まで

3 聴取場所

Jビレッジ 女子寮 会議室

4 聴取者

岡田 幸大 参事官補佐

齊藤 修啓

5 ICレコーダーによる録音の有無等

あり

なし

第2 聴取内容

別紙のとおり

3月12日の1号機水素爆発後行った3、4号機中操の非常扉の固縛について

3、4号機中操の発電機移設前までに行った発電機への給油について

第3 特記事項

以上

【取扱い嚴重注意】

別紙

1. 被聴取者について

私、XXXXXXXXXXは、福島第二原子力発電所（以下「2F」という。）の3,4号機補機操作員である。11月に2Fに異動する前までは、福島第一原子力発電所（以下「1F」という。）の3,4号機補機操作員である。入社5年目であるが、研修員の時代から1Fの3,4号機を担当していた。なお、補機操作員は、機器の起動確認等、主に現場での仕事がメインである。

3月11日、地震があった時には、私は3号機原子炉建屋の2階で作業中であった。津波が来た時には、同建屋の5階で、天井クレーンに取り残された作業員の救出に当たっていた。その後は、3,4号機の事故収束作業に当たった。

2. 3月12日に行った3,4号機中操の非常扉の固縛について

3月11日の夜から12日の朝まで、私は中央制御室（以下「中操」という。）の外に作業に出ていた。作業から帰ってきた時には、発電機からケーブルが引かれて電気がついており、何人かの作業員が、扉が開かないように固縛する作業をしていたので、私もその作業を手伝った。帰ってきた時間は不明だが、1号機の爆発より前だったはずである。私はロープを何重かにして、扉の取っ手とそこから約1m離れた位置にあるルーフドレン配管を固縛した。扉にシートを貼る作業は、私は行っていないが、見ていた。私が扉を引っ張っている間に、電源ケーブルを通して生じる隙間に、毛布を詰め、その上から、扉の隙間が覆われるようにシートを貼っていた（別添参照）。毛布は一般的なもので、1枚だったため、隙間全てを埋めることはできず、下のほうの隙間には何も詰められていなかった。シートは、テープ等の隙間がないように貼られていたと思う。この時、石膏ボードを扉に立て掛けていたという記憶はない。毛布やシート、ロープ等の必要な資材を誰が用意したのかは分からない。扉の固縛とシートを貼り付ける等の作業は、私を含めた2,3人で行っていた。非常扉のところは暗かったため、懐中電灯で照らしながら作業した。

3. 非常用発電機への給油について

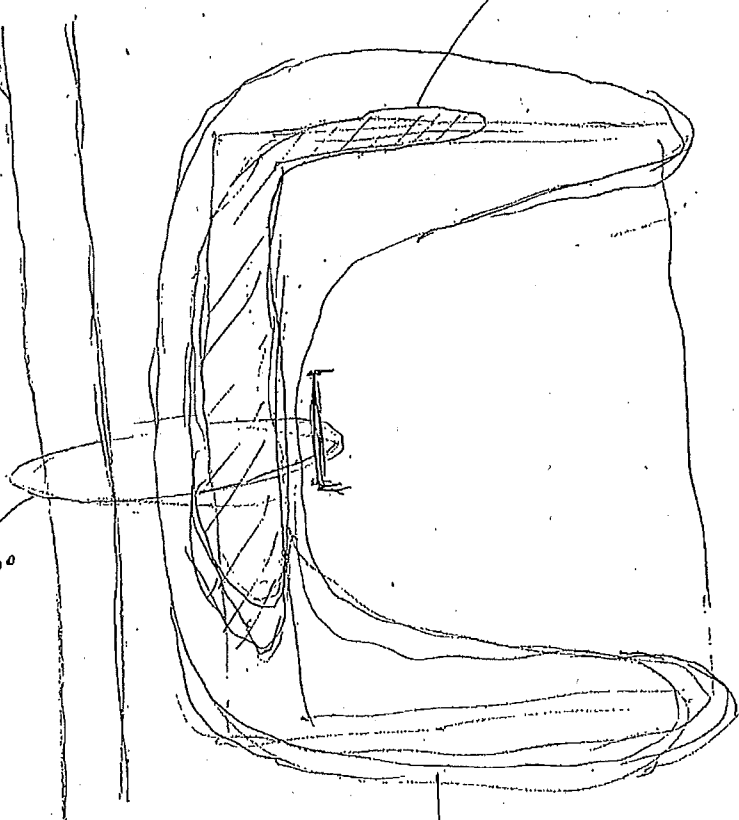
非常用発電機は、2時間から4時間置きに給油が必要であり、私も2,3度給油に行った他、発電機が停止して、再起動しに行ったりもした。発電機は、螺旋階段の下の地面と2階レベルそれぞれ1台ずつ、合計2台あったという記憶である。2台からそれぞれ1本ずつ、中操内にケーブルが引き入れられていた。給油の際は、非常扉を出てすぐのところに保管してあったガソリンを2台ともに給油した。給油が必要になる時間と担当者は、ホワイトボードに記して共有していた。給油に行く際には、ロープやシート等を全て外して、外に出た。外にいる間は、中にいる人にシートを貼りなおしてもらった。中にいる人はそのまま近くで待ち、給油から帰ってきた時は、ドアをロックして、中にいる人に開けてもらった。その際、テープをいちいち新しい物に取り換えたりはせず、シートにテープを付けたままはがして、それをそのまま何度も貼りなおしていた。私もやったことがあるが、5分もかからないぐらいで貼りなおすことができた。1号機爆発の時は、音と振動を感じたが、非常扉がどうなったかは記憶にない。

3月13日昼に免震重要棟に戻ったが、それ以来、私は中操には行っていない。

ルーフレイン配管

10-70

毛布



10-70